

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和8年5月1日予定

(%)

事業所名 吹田市立こども発達支援センター杉の子学園

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100				・ホールや午睡室の調整を行いどのクラスも使えるようにしている ・グループ保育、パーティーなどで環境整理をする	課題別の療育や、小集団療育時の部屋の確保をする
	2	職員の配置数は適切である	68	7	25		指定における人配置基準を上回る職員配置基準を設けている	職員定数は人員配置基準を上回り適切、正規職員と会計年度職員で役割分担をしている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	94	6			・写真や絵カードを使って視覚支援を行う ・子供の特性によって安全な環境を整備 ・月に1回の安全点検。会議や専門職のアドバイスを受けて環境を整えている	・障がい特性に合わせた、わかりやすい支援をしていくには環境設定も含めて、できるところは改善をしていく ・設備改善については課題も大きい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100				専門職と話をしながら、遊びの設定や机、動線を整え、わかりやすい環境作り	・理解して動ける生活環境作りをし、課題に合わせて遊びこめる環境を作る。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	83	17			・日々クラスの療育を振り返り、今後の療育について話し合っている ・園運営、行事の振り返りを行っている	・引き続き、計画的に多職種連携保育を行い、課題を確認しながら日々の療育に活かしていく ・会議や業務の見直しをしていく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	94			6	保護者会とも連携して要望を聞き園の状況を伝えている	保護者の要望を把握し、業務改善をしていく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100				前年度の自己評価を元に、改善や課題の工夫をしてきた	保護者のニーズをに答えられるよう工夫しているが、保育参加や研修の参加の負担など、要求をつかみ開催していく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	94			6	複数の事業所をお願いした	評価結果を元に改善していく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	94	6			・専門職による研修や園内研修を充実して学びにする ・年間で研修の計画を立て行う ・保育幼稚園室の研修や、外部の研修にも参加している ・課題に合わせてタイムリーな研修をしてきた	職員のニーズや課題を捉えながら、タイムリーな研修ができるよう研修体制を作り、業務に生かしていく
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100				・専門職と連携し園児をアセスメントしている ・保護者との懇談や交流会等ニーズが聞ける場を作っている。	子供の課題や、保護者のニーズをつかみ、児童発達支援管理責任者が説明をし療育を積み重ねていく
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	89	11			アセスメントシートの活用	専門職員と連携し、活用していく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100				・家族支援は重きをおいて取り組んできた ・懇談や交流会、研修などの工夫も行ってきた。	子供の課題や、保護者のニーズをつかみ、児童発達支援管理責任者が説明をし療育を積み重ねていく
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100				児童発達支援管理責任者の計画に沿って療育してきた	児童発達支援管理責任者とクラスが連携して療育を行っている
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100				多職種連携をし、アセスメントを元に集団療育をしてきたことで、回を重ねるごとに療育の工夫もされ、子供たちも楽しみながら療育を積み重ねている	多職種連携療育を行っている
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	95	5			繰り返しの療育を大事にしながら展開できるよう工夫している	児童発達支援管理責任者とクラスが連携して療育を行っている	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100				引き続き、課題を確認し療育に活かしていく	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	94	6		月毎の計画を元に、日案を立て、準備や役割分担を確認し、療育している	児童発達支援管理責任者とクラスが連携して療育を行っている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	66	34		その日の療育を振り返り活動内容や子どもの姿を共有している	クラス、園全体での反省、振り返り、終わりの会で共有する	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	60	40		担当を決めて記録	振り返りを記録し、次につなげられる療育をしていく	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100			・モニタリング会議やケース会議で、課題や対応を確認している	児童発達支援管理責任者とクラスが連携し、計画的に行っていく。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	89			11	サービス担当者会議の適時開催が課題	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100			・療育等関係機関連絡会で情報共有を行っている ・すこやか親子室からの紹介、園見学を行っている	引き続き綿密な連携をし、支援に繋げていく	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100				保護者を通して連携を行っている	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100				・主治医の指示書に基づいてケアをしている ・保護者を通じて療育における留意事項などを確認するなど連携してきた	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100				・保護者を通じて療育内容を連携している ・杉の子での療育を知ってもらうために保育園等の職員が見学に来たり、杉の子の職員も見学に行き他の施設の様子を知る機会を作っている	・情報共有や連携をさらに密にとれるよう積極的に関わりを作り、具体的な見学や交流を計画的に入れていく ・引継ぎの機会に丁寧に伝えていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100				学校見学職員も参加したり、支援学校の職員が見学実習に来たりして連携をしている	・引き続き学校見学をし、各関係機関と連携し、就学先の相談をしていく ・学校教育室との連携も、学校ごとの仕組みの違いも伝えていき、保護者が不安にならないようにしていく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100				・他の事業所見学に行っている ・モニタリングで連携	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100				・保育園、幼稚園、こども園の交流を行ってきた ・反省を元に次年度につなげている。	・今年度の反省振り返りを行い次年度に生かしていく ・いろんな園と交流ができるように進めていき、連携を深めていく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	56		22	22		開催時は積極的に参加する
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100				・日々の連絡帳や交流会、懇談会等で子供の姿を共有している ・連絡帳や電話でも共有している	保護者のニーズをつかみ、センター全体で相談体制や助言、支援をできるよう、必要時はケース会議を持ち、様々な角度から支援をしていく
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100				保護者が参加しやすいよう、きょうだいの見守り保育も行い、年に2回のペアレントプログラムを行っている	年間の予定や保護者の感想を伝え参加を増やしていく

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100				重要事項説明書、入園のしおりを使い、入所前面接や入園式で伝えている	保護者にわかりやすいよう伝えていく工夫をする
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100				入園前や、個人懇談で個別支援計画書を一緒に確認している	・個人懇談を年2回や必要時、その都度行っていく。 ・児童発達支援管理責任者の面談をし課題の確認、支援の確認をしていく
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100				・連絡帳や交流会懇談会等で話を聞いて対応している ・毎日顔を合わせる機会がないので連絡帳や電話等で連携している	・保護者のニーズをつかみ、必要なタイミングで適切に、センター全体で相談体制や助言、支援をしていく ・必要時はケース会議を持ち、様々な角度から支援をしていく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	94			6	・行事や交流会等を園と保護者会が連携して行っている ・写真販売を保護者会と連携し導入してきた。保育参加日に交流会等で保護者動詞のつながりを意識して進めている。	保護者会と連携し、必要時には会議にも参加し、引継ぎ等もスムーズに行われるよう、共に進めていく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	89	11			・悩みを持った家庭に対して心理職と連携し心理相談や専門職とつなげた。 ・相談支援専門員やセンターの地域支援員にも相談をしている。	ケースにより必要時は他機関とも連携をしていく。要望や相談に答えられるよう早急な対応をしていく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100				園だより、クラスだより、誕生会だより等で伝えている	必要な情報が適切に届くよう、アプリの導入をしていく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100				毎年市の研修を受けている	引き続き研修を行い、取り扱いを気付けたり二重チェックをしていく
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100				・保護者と個別にじっくりと話す機会を持つ ・視覚支援を使っている	保育参加や、交流会、懇談会、個人懇談会、児童発達支援管理責任者との懇談等で情報共有をしていく
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	43	12	29	16	・社会福祉講座のお知らせ・周年行事で卒園児参加の呼びかけをしていく ・事業所連絡会に参加し、連携を取っていく ・必要時ケース会議を行ってきた	地域福祉講座の開催・行事来賓をしていく。事業所連携をし、リンクサポートに繋げていく
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	83	17			不審者対応の訓練やAED使用等の研修を行っている	・行方不明の時の訓練も必要・現マニュアルが現状に合っているのか検討してマニュアルの改訂も行っている ・保護者への周知をしていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100				月に一回の火災の避難訓練と地震、センターの合同訓練を行っている	・毎月の避難訓練の様子を伝えていく ・センターの安全計画等の、マニュアルの見直しをし、保護者に周知していく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100				・4月に職員全体で確認し、全体会議で把握しバスにもファイルにも状況をのせている ・発作時の職員の動きを訓練している	家庭と連携をし、子供の状況を確認し、必要な研修も行っていく
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100				保護者とアレルギー会議を持ち確認している	アレルギー会議の確認をし、間違いのないようチェック体制を作り対応していく
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	77	23			ヒヤリハットがあると報告書を作成し朝会で共有している	ヒヤリハット等を出し、次に生かし同じことを繰り返さないようにする
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100				・虐待防止委員会を持ちセンター全体で対策を考えている ・研修には積極的に参加し、園内での会議を定期的に持ち、子供への対応や職員同士の連携を考える場を持ってきた	・職場内の虐待防止委員会、センター内の虐待防止委員会を開催し、センター全体で考える機会を持ち、また研修やケース検討をしていく ・子供の対応や声掛けを考えあい、風通しの良い職場作りをしていく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	82	18			やむを得ず必要な場合は、専門職と共に園内で検討をして保護者と話をし短期間の計画を設定し見直しをし進めている	・身体拘束に関する委員会を行い検討や、研修を行っていく ・やむを得ず行う時は委員会を開催した上、保護者と確認し、個別支援計画に記載し行っていく

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。